

高等学校公民科（倫理）採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答	[例]	採 点 上 の 注 意	配 点
1	1	3		6
	2	3		6
	3	3		6
	4	6		6
	5	4		6
	6	5		6
	7	4		6
	8	6		6
	9	2		6
	10	3		6
	11	3		6
	12	8		6
2	1	2		8
	2	4		8
	3	3		8
3	1	5		8
	2	6		8
	3	1		8
4	1	4		8
	2	2		8
	3	1		8
5	1	3		6
	2	3		6

高等学校公民科（倫理）採点基準

2枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答	採 点 上 の 注 意	配 点
6	1 J.S.ミルは、物質的な快楽と精神的な快楽の両方を味わった経験のある人が再び選ぶのは、質的に高い精神的な快楽の方であるとして「満足した豚であるよりは不満足な人間である方がよく、満足した愚か者であるよりは不満足なソクラテスである方がよい」という言葉で快楽に質の差を認め、それを重要視する質的功利主義の考え方を示した。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10
	2 ノージックは、個人の身体や才能、財産などはその人の所有物であり、加えて自由意志に基づく交換や譲渡によって手にしているものも、個人がそれを正当にもつ資格があるという権原理論を示した。この理論から、ノージックは、国家が強制的課税によって所得や富を再分配し、福祉政策を推進するのは個人の自由への不当な侵害であると批判し、リパタリアニズムが正当化する国家とは、個人の自由と権利の保護のための治安維持や国防に限定された最小国家のことでありと主張した。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10
7	教師は、まず、生徒に資料Ⅰの特徴や傾向を読み取らせたり、資料Ⅰと自身の経験を比較させたりしながら、インターネット利用に関するトラブルや課題について挙げさせる。次に、教師は、生徒が挙げた具体例などを資料Ⅱと関連付け、その解決策などについて資料Ⅲを基に考察させる活動を行う。 例えば、資料Ⅰのフェイクニュースとの遭遇や拡散、違法・有害情報に遭遇の項目に着目させ、資料Ⅱで示された具体例と関連付けて、フェイクニュースやフィルターバブル、エコーチェンバーなどについてどのような課題があるか考えさせ、その解決策を考察させる。その際、資料Ⅱを通して、インターネット利用においては、真偽が不明確な情報が素早く拡散し、あたかも事実であるかのように捉えられたり、気が付かないうちに自らの情報が収集され、アクセスしやすい情報が予測され、おすすめの投稿や情報として表示されたりすることに気付かせる。また、このようなフェイクニュースを無自覚に拡散したり、フィルターバブルによって自分が見たい情報しか見えなくなってしまいう状態に陥ったりするなどの課題に気付かせる。 その後、先哲の原典を示し、インターネット利用やSNS利用に関して、プラトンの「洞窟の比喩」がどのような点で参考になるか、などの問いを設定する。資料Ⅲから、人間は、洞窟の中で鎖に繋がれて身動きができない状態にあり、幻の世界が映った影絵だけを凝視してそれを現実と勘違いしており、そうした人間が現実を知りうるには、拘束から解き放たれ、身を外に向けかえる必要があることを生徒に理解させる。この洞窟の比喩の理解を手掛かりに、フェイクニュースやフィルターバブルに関する解決方法を考えさせ、情報に接する際に、情報源を確かめたり、異なる意見の存在や別の可能性を考えたり、探したりすることや情報を拡散・共有しようとする際には、その情報が確かな内容であるかどうかよく考え、マスメディアによる報道やファクトチェック記事を調べることの重要性に気付かせる。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	24